

医療福祉支援センター

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	1 人	

2 教員の異動状況

小林 利彦（特任教授）（2010 年 8 月～現職）

3 研究業績

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	2 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	10 編	(10 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林利彦, 中村高子: 静岡県の医師事務作業補助者の現況と課題. 日本医療秘書実務学会 第4回全国大会 プログラム・要旨集: 32-35, 2013
 2. 小林利彦, 長野宏一朗, 櫃本聿一, 藤田伸輔, 川崎浩二: 退院支援・退院調整プロセスにおける医療情報活用の潮流. 医療情報学 33-Supplement: 172-173, 2013
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(2-2) レター

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 小林利彦: 医療現場が抱える「医師事務作業補助者」の課題と対策～人材育成に必要な教育プログラムの策定～ 医事業務 429: 14-19, 2013
 2. 小林利彦, 中村高子: 当院(国立大学病院)における医師事務作業補助者養成プログラムの現況と課題. 医療秘書実務論集 3: 39-44, 2013
 3. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第1回 病院に求められる機能と第三者評価の重要性. 医事業務 433: 26, 2013
 4. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第2回 病院事務職員の専門性と外部委託の是非. 医事業務 436: 54, 2013
 5. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第3回 DPCの登場から10年が経過して. 医事業務 438: 50, 2013
 6. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第4回 DPC 関連データの有効活用 - 分析ソフトに関して-. 医事業務 440: 18, 2013
 7. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第5回 ルールを「守る側」と「作る側」. 医事業務 442: 67, 2013
 8. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第6回 特定共同指導を受けて. 医事業務 445: 19, 2014
 9. 小林利彦, 山岡泰司: 自治体病院事務職員の人材開発のための「小林塾」を開催して. 病院 73: 194-198, 2014
 10. 小林利彦: Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 第7回 特定の保険薬局への誘導禁止に反していないか? 医事業務 447: 98, 2014

インパクトファクターの小計

[0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 小林利彦(分担執筆). 患者安全推進ジャーナル別冊「感染管理に関するツール集 2014 年度

版」. Chapter11「第三者機能評価における感染管理の考え方」. pp103-106. 公益財団法人日本医療機能評価機構. 有限会社ボンソワール書房. 2014

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 25 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(30 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1 件	(269 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

基盤研究(C)、病院の地域連携・退院調整部門における評価指標確立に向けた研究、平成 23 - 25 年、平成 25 年度分：30 万円

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

二次医療圏の診療情報の集約化とデータベース化事業のモデル構築、中東遠地域医療再生支援センター事業、平成 23 - 25 年度、平成 25 年度分：269 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	2 件
(3) 学会座長回数	0 件	2 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	1 件

(6) 一般演題発表数	0 件	
-------------	-----	--

(1) 国際学会等開催・参加

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

1. 小林利彦：国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会アンケート報告（教育・研究・広報部門）. 第 10 回国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会. 2013.7. 仙台

2. 小林利彦：地域包括ケアシステムにおける急性期病院地域連携室の役割. 第 21 回日本慢性期医療学会・第 3 回アジア慢性期医療学会. 2013.11. 東京

4) 座長をした学会名

1. 第 33 回医療情報学連合大会（第 14 回日本医療情報学会学術大会）. 退院支援・退院調整プロセスにおける医療情報活用の潮流. 2013.11. 神戸

2. 第 16 回日本在宅医学会大会. 在宅医療における病院地域連携室の役割 -起点あるいはハブとして-. 2014.3. 浜松

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本医療情報学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道

1. FM ラジオ (K-MIX) 出演. 「浜松健康フォーラム」キャンペーン. 2013 年 4 月 30 日
2. SBS ラジオ (サンデークリニック). 「かかりつけ医はこんなに便利です —生活習慣病について」.
2014 年 2 月 16 日
3. FM ラジオ (K-MIX) 出演. 「みんなの 19HR!」. 2013 年 7 月 3 日～9 月 25 日 (13 回)
4. SBS ラジオ. 「サンデークリニック 2 時間スペシャル」. 2014 年 1 月 26 日